

[K3] 筑波大学留学生とのブース・ワークショップ

日時	2018年11月16日(金)及び20日(火)
目標	<ul style="list-style-type: none"> • 大学教員および留学生との懇談を通し、課題の設定と解決のための洞察力や思考力を身につけ、独創的な発想を刺激・喚起する。 • 留学生とのディスカッションを通して異文化理解を進め、コミュニケーション能力の向上を図る。
場所	本校 会議室 旧本館
講師	<ul style="list-style-type: none"> • 筑波大学留学生延べ20名 カナダ、スペイン、エジプト、フィリピン、マレーシア、トルコ、ポーランド、モンゴル、ベトナム、インドネシア、インド等 • SGH職員ほか
対象	1年生320名
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> • 土浦一高インターナショナルデーと称する。 • 生徒40名の1クラスに全留學生が参加し、1時間の授業内で完結する。 • 1時間の授業を1日4回、2日間で計8回実施する。 • 留學生1名に対して生徒4名の小グループで会話する。 • 生徒が取り組んだ課題研究テーマのビジネスアイデアを紹介したり、留學生の出身地の文化について日本との相違点を話し合う。
生徒感想	<p>• 留學生の方は、みな自国の地図をスラスラと書いていた。自分も、日本の地区をなんとなくでも書けることから、どんな人も、国や文化を自分の背景として持っていることが分かった。物事を主観的に見るだけでなく、客観的なフィルターを通して、普遍的な行動をとらなくてはならないと感じた。それを忘れると、不必要な差別や発現になってしまうおそれがある。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> • 課題の設定と解決のための洞察力・思考力…A [根拠] 幅広い視野を持つことができた生徒が多かったため。 • コミュニケーション能力の向上を図る…A [根拠] 事後アンケートで英語学習の意欲が向

	<p>上したと回答した生徒の割合が64.1%となったため。</p>
課題	<p>多数の留學生を擁する筑波大学に協力して頂き、一定数の講師を招聘することが可能となっている。いっぽうコストとしては人件費を1日当たり6000円を計上しているため、今後あてられる予算が減少したあとも継続できるような工夫が必要である。</p>



